

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	(地域レベルでの取り組み基盤の整備)協働と持続性確保のための枠組み・体制の整備
手法名	市民団体の里地里山保全活動における間伐材利用手法
主体	はだの里山保全再生活動団体等連絡協議会
背景(地域の課題)	市民ボランティアによる里地里山保全活動では、発生する間伐材、竹林、雑木の活用が十分に広がっていない。このため保全活動と共に里地里山の自然資源をどのように活用するかが課題となっており、先進地から里山林・間伐材等の活用方法を学ぶことが大切である。
手法／方策の詳細	<p>ボランティア団体の活動は小規模ではあるが、それぞれの地域の実情に応じたきめ細かな活動を展開しており、規模に応じた間伐材等の活用や、地元材のイメージ向上、PR等の効果を発揮している。</p> <p>1) 里山の保全整備活動 間伐、風倒木の整理、竹林整備、下草刈り等、子どもから高齢者まで参加者層に応じた活動が展開されている。(写真1)</p> <p>2) 間伐材の利用 保全活動や交流事業の中で発生する間伐材を散策道補修用材、案内看板、生き物の里の小川整備、水車、柵、ベンチ作り、シイタケ栽培、薪作り、竹細工作りなどに利用している。(写真2, 3)</p> <p>3) 調査研究への貢献 市が行っているバイオマス利用の調査研究の一環として間伐材によるチップ化作業やチップボイラーへの提供を行っている。(写真4)</p> <p>4) 消費者団体とのネットワーク構築 保全活動と連動して観光、農業、食育などを展開することで、生協など消費者団体との関係を構築させている。</p>
手法・技術的視点	保全活動によって身近に発生する間伐材等の自然資源は、里地里山活動で利用する資材として還元させていくことができる。小物類作り、キノコのほだ木利用、薪作り、水車や柵、ベンチづくり、竹細工など、活動規模や内容に応じた多様な活用が可能である。



写真1 金目川沿い竹林整備



写真3 渋沢小学校児童の菌打ち(平成22年3月)



写真2 間伐材ヒノキ利用による水車(直径1メートル)  
平成22年6月峠地区生き物の里に設置



①間伐材の搬出



②チップ化作業



③チップボイラー

写真4 バイオマスの活用

参考資料	里なび研修会in神奈川 はだの里山保全再生活動団体等連絡協議会
------	---------------------------------